

摂津市まちづくり市民会議

第2回「今後10年間 摂津市は何に力を入れるべきか」 議事概要

日時：5月11日（月）19:00～21:10

場所：摂津市立男女共同参画センター 大会議室

出席者：市民21名（欠席1名）、事務局7名、コンサルタント5名

1. 前回のふりかえりと本日のプログラムの説明

- ・はじめに、前回のふりかえりと本日のプログラムの説明がありました。
- ・また、参加者から、大阪人間科学大学現代GP事務局が作成された冊子「摂津の鉄人^{てつびと}」、「摂津・水の景」、「正雀学生手帖」の資料提供があり、ご説明いただきました。

2. 意見交換～摂津市が今後10年間に力を入れて取り組むべきこと

- ・続いて、意見交換の進め方と、話し合いの3つのルール（共聴・共創・共働）について進行役から説明があり、4つのグループに分かれて、約1時間にわたり話し合いました。（話し合いにあたっては、部会の担当分野にこだわらず、意見交換を行いました）

3. 発表と共有

- ・話し合ったことについて、各グループから発表がありました。

[くらし部会①]

- ・医療に関しては、「摂津市には公的総合病院がない」、「近隣市との連携」、「AED設置場所の偏在」など、ハードとソフトのミスマッチがあるのではないかと。
- ・生きがいに関しては、超高齢化社会の中で「どのように生きがいを見つけていくか」というところが大事なポイントになる。
- ・地域のマナー・生活習慣に関しては、子どもが自転車に安心して乗れるように「自転車の免許制度」を導入してはどうか。静岡の方で、4年生以上に免許証を交付し、免許証をもらうまでは自転車に乗ってはいけないという地域があるようである。
- ・若い世代も高齢者の方も「摂津市に住んでよかった」と思えるまちにしたい。
- ・そのためには、茨木市や吹田市、梅田に買い物に出かけてしまうが、すぐ近くで買い物ができるように「商店街の活性化」が必要である。また、イベントの開催地域に偏りがあるように思われる。
- ・昔から摂津に住んでいる人たちと、他都市から移ってきた人たちが一体となっていけるようなまちとなることが求められる。
- ・摂津市には4,000の事業所があるので、「就業・就労支援の体制の充実」が必要である。そのために、大学やポリテクセンター、企業などを有効に活用していくことが必要である。

[くらし部会①（続き）]

- ・住みよいまちをつくり、自分のまちで働いて、自分のまちで生活していけるようになればよい。
- ・環境問題に関しては、ゴーヤやあさがおによる「緑のカーテンづくり」など、地域が一体となった取組をしてはどうか。また、ごみのない清潔なまちづくりをしたい。
- ・行政に対しては、「別府斎場の見直し」、「教育、社会保障分野の市の直轄事業化」、「市民総合窓口の一本化」などが求められる。

[くらし部会②]

- ・「子育てがしやすいまち」をめざしたい。摂津で生まれたお子さんが、小学校を卒業される頃までの間に、市外にたくさん転出しているようである。転出する理由をしっかりと考える必要がある。摂津に移り住んできた自分の子どもたちが、摂津で子育てをしてもらえるようになってはじめて、「摂津がふるさと」となるのではないか。
- ・「高齢者や障害者が安心して暮らせるまち」が大事であり、道路・歩道などのバリアフリー化、産婦人科など医療の整備、近隣での買い物のしやすさなどが必要である。
- ・「充実した人生を送れるまち」がよい。特定の人だけでなくいろんな人が施設を使えるような工夫や、趣味を通してまちづくりに貢献できるようなまちになればよい。問題提起として、「高齢者をひとくくりで弱者として扱うのはどうか」というご意見があった。「自分でできることは自分でし、支えるべき人を支えていく」というメリハリがないと、本当に支援が必要な人に支援が届かないように思う。
- ・歴史文化に関しては、貴重な資料が出土しているが、きちんと保管・展示されていないという問題提起があった。これについては、出土した資料をまずは市民の皆さんに見てもらい、「資料が大事である」ということになれば、摂津が誇れるものの保管・展示のあり方を考えていくことが必要になるという話し合いがあった。
- ・情報共有に関しては、「摂津のどこで何が行われているのかがわからない」、「回覧板が回ってくるのが遅い、戻ってこない」というご意見があり、携帯電話のメールなど、ITを活用した情報共有の提案があった。
- ・環境保全に関して、「大気汚染の測定ポイントの追加」、「太陽光パネルの公共施設への設置」などのご意見があった。また、「自治活動の活発化」、「市民参加をもっと本気でしていくことが必要」とのご意見があった。
- ・特徴ある取組をすることで、その波及効果で摂津のまちが良くなっていくのではないか。ギネスブックに載るようなことが一つでも摂津でできると良い。
- ・何はともあれ「財政再建」が必要である。必要なことに投資をするためには、無駄なものをなくす必要がある。「借金を減らす」、「無駄な医療費を削る」などの取組を進める必要がある。

[まち部会③]

- ・行政への要望から、市民一人一人が考えてできることまで、幅広い意見が出た。
- ・「まちの規範」に関しては、「自治基本条例の制定」が必要である。また、「市役所の縦割り行政の改善」、「市財政に一番貢献している現役世代への配慮」という行政への要望があった。
- ・コミュニティに関しては、「まちづくりの方針を決めること」や、若者や老年代など、どの世代もつながりが持てる家族的な地域行事や地域で共に連携できるようなもの」が必要である。また、摂津市の各地域で、それぞれ「特徴のあるまちづくり」をしていきたい。コミュニティスクール（地域立学校）の実践を通じて、小学校区を単位とするサステイナブルな「スクール・コミュニティ」が形成できるとよい。
- ・教育に関しては、「摂津市の教育の抜本的な改革と充実」が必要である。また、「循環型の生涯学習社会の形成」も求められる。
- ・まちのキーワードとして、「ノーマライゼーション」、「サステイナブル・タウン（シティ／コミュニティ）」があげられた。また、「まち育て」という言葉が出た。「まちづくり」から「まち育て」ということで、人間も環境も、時とともにお互いに育みあう関係としての「まち育て」を実現していければと思う。
- ・まちの資源の活用という観点からは、「淀川の渡し舟の復活」、「市内の大学の活用」、「鉄道などの観光資源の活用」、「川の環境づくり」などのご意見があった。また、新たな資源づくりとして、ギャラリーや観覧席の整った「中心的な体育館の整備を」というご意見があった。
- ・その他、企業誘致や永住促進、まちの特色のPR、交通や道路、ごみの問題などについてご意見があった。商業振興に関しては、「市内での買い物促進」や「食の街づくり」などの意見があった。「安全なまち」は、いつの時代も共通していわれるキーワードであり、「防犯の強化」といったご意見があった。

[まち部会④]

- ・大きく、「安全・安心」、「教育」、「歴史・文化」の3つについてご意見があった。
- ・安全・安心のまちづくりとしては、「道路が狭い」、「自転車が安心して通れない」、鉄道に南北に分断されていて「移動ができない」、循環バスはあるが「駅まで時間がかかる」といったご意見があった。自転車に安心して乗れないので、「自転車専用道路の整備」を求めるといったご意見もあった。歩道の整備により「楽しく歩けるまちづくり」を進められるとよい。
- ・若い世代が摂津市に定着しない理由としては「教育」の問題が絡んでいるように思われることから、小・中学校の教育をレベルアップし、「教育に熱心なまち」としていくことが必要である。

[まち部会④（続き）]

- ・環境問題に関しては、「ほこりっぼい」、「まちが灰色」、「緑が少ない」などのご意見があった。そのなかで、やはり「緑のまちづくり」、「緑でうるおいのあるまちづくり」を目指していく必要がある。また、太陽光エネルギーの利用を促進するために、補助金等を使って、工場だけでなく、一般の住宅にも普及していければと思う。
- ・歴史文化に関しては、「摂津市史」を通して読み、摂津市は古いまちであり、おもしろいまちだと思った。淀川を中心とした歴史があり、時代小説にも登場するぐらい有名であるが、それがどこかに消えてしまっている。史跡などを見つけ出して、売り込み、摂津市を有名なまちにすることができればと思う。

4. 今後の日程について

- ・5月24日（日）に実施する市内めぐりのバスツアーの予定について事務局から説明がありました。
- ・6月以降の日程について、参加者のご予定を踏まえ、多くの人に参加できる日程として、第4回を6月16日（火）、第5回を6月30日（火）、第6回を7月21日（火）に開催することが了承されました。
- ・最後に、「ふりかえりシート」にご記入いただき、第2回のまちづくり市民会議を閉会しました。

（以上）